<肥料の散布時期について>

これまでの施用日を目安にしています。
 施用日、施肥量等につきましては、地域差がありますので
 各営農経済センターへお問い合わせください。
 猛暑年における高温対策については14,15ページをご参照ください。

「コシヒカリ」

栽培こよみ

大津・南部農業農村振興事務所 農産普及課監修
 高島農業農村振興事務所 農産普及課監修

品種特性

コシヒカリの特性

系 譜：農林22号×農林1号
 成熟期：早生品種
 倒伏性：弱（稈長94cm）
 耐病性：弱（特にいもち病に弱い）
 品質：良 質
 食 味：味・香り・粘り共最高
 収量性：中
 その他：生産量日本一

- * 田植日：5月10日基準
- * 出穂期：7月27日
- * 成熟期：8月28日

栽培基準

〇土づくり資材施用例 (10a当り)

肥料名	施用量
とれ太郎 ケイ酸30-アルカリ40	80kg

〇普通田の施用例 (10a当り)

体系	肥料名	全量	基肥	追肥		穂肥	
				6月上旬	出穂18日前	出穂11日前	出穂4日前
分施	化成肥料488 N14-P8-K8	10~20kg	10~20kg	(5kg)			
	化成肥料201 N20-P0-K10	20kg			10kg	10kg	
省力一発	楽だね15 (早生用)	27~35kg	27~35kg	追肥・穂肥なし			
	これいいね (早生用)	30~35kg	30~35kg				

- * 環境こだわり栽培については17、18ページに記載しております。
- * 稲わらの腐熟促進のため石灰窒素を10a当り10kg施用した場合は、基肥を50%程度減量してください。
- * 転作跡（野菜・大豆・レンゲ）の圃場の基肥は、施用する必要はありません。

〇倒伏軽減資材施用例 (10a当り)

肥料名	施用時期	施用量
けい酸カリプレミアム34	中干し後(出穂40日前)	40kg

〇食味向上資材施用例

肥料名	施用時期	施用量
マルチサポート2号	出穂40日前	40kg

長期中干しについて（温室効果ガスの排出量削減）

慣行の中干し期間を一週間程度延長することにより、収量への影響を抑えつつ水田からのメタン発生を約30%削減できることが実証試験から明らかとなっています。中干し期間を14日程度に延長し、温室効果ガスの削減を図り、これ以上の気温上昇を食い止める事で安定生産を目指しましょう。

秋期のすき込み（温室効果ガスの排出量削減）

圃場が乾いている状態で稲わらを少しでも早く（秋期）すき込む事で、近年増加している還元障害の対策となるだけでなく、温室効果ガス排出量の削減による気温上昇を抑える事にもつながりますので、秋期のすき込みを励行しましょう。

〇苗箱剤施薬例

適用区分	農薬名	成分数
殺虫殺菌	ブイグットフェルテラ粒剤	2成分
	スタウトパディート箱剤粒剤	

〇本田除草剤施薬例 (10a当り)

使用区分	農薬名	散布量	成分数
初中期一発	アツパレZ 1キロ粒剤	1kg	3成分
	アツパレZ フロアブル	500ml	
	アツパレZ ジャンボ	400g	
初期	ピラクロン 1キロ粒	1kg	1成分
	ピラクロン フロアブル	500ml	
	ピラクロン ジャンボ	300g	
中期	ザーベックス SM粒	3kg	3成分
	ニトウリュウ ジャンボ	500g	2成分
中後期	バサグラン 粒剤	3kg	1成分
	クリンチャー 1キロ粒剤	1kg	
	クリンチャーパスME 液剤	1L	

※農薬の使用については、農薬ラベルをご確認いただき使用量、使用時期、使用方法にご注意ください。

月	3月		4月			5月			6月			7月			8月			9月	
旬	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中

生育ステージ	育苗期			活着期			有効分げつ期			無効分げつ期			幼穂形成期			穂ばらみ期			出穂期			成熟期		

主	育	播	育	基	耕	代	田	除	溝	追	長	穂	穂	病	病	収	乾	調					
な	苗	種	苗	肥	転	か	植	草	切	肥	期	肥	肥	害	害	穫							
作	備	種	苗	肥	転	き	え	剤	り	6月上旬	中干し	初回	2回	虫防	虫防	8月下旬	乾燥	製					

業	浅水			浅水			間断灌がい			間断灌がい			常時湛水			間断灌がい			落水		
	【水管理】									長期中干し						カドミウム吸収抑制対策					

栽培のポイント	◎倒伏防止と良食味を目指すため基本技術を励行しましょう。			◎土づくりと水管理により、根の活力を維持しましょう。			◎収量は、登熟歩合の向上と玄米の充実で確保しましょう。			・還元干し ・除草剤散布後に還元干し(2、3日程度)を実施する場合は、除草効果が低下するので相談下さい。 ・水の掛け流しはしない ・除草剤散布後3日間は水を入れない			・追肥は葉色が淡い時のみ施用			・長期中干しは、目標茎数の8割・約17・18本を確保したら開始する14日程度 ・長期中干しは、根の伸長を促し、無効分げつを抑制し収穫作業に役立つ			・出穂期は湛水状態を保つ ・2回目穂肥は、出穂4、11日前窒素成分2.0kg/10a ・初回穂肥は、出穂18日前窒素成分2.0kg/10a ・早い穂肥は粉数が多くなり、青未熟・乳白粒・心白・腹白の発生を助長する ・カドミウム吸収抑制対策として、出穂3週間前から3週間後は湛水管理を行う			・落水は収穫予定5日前とする ・早期落水は、千粒重・品質に悪影響を及ぼす ・乾燥は0.8% / h低下を目途に調整する・水分は15%を目標		